

2022年6月報告書

呉 悠

もくじ

1. はじめに
2. 授業
3. 生活
4. 1年間で変わったこと

1. はじめに

こんにちは。ボストン大学学部1年を終え、9か月ぶりの日本に逆カルチャーショックを受けている呉悠です。この報告書では、1年春学期の授業や生活の様子と、留学1年目の振り返りを記録しています。

2. 授業

【Introduction to Computer Science 1】

コンピュータサイエンス専攻最初の必修であるPythonの授業です。自分の心理学専攻とは関係なく興味本位でとったのですが、感動で涙が出そうになるくらい授業がおもしろく、あらびっくり、気づいたらコンピュータサイエンスと心理学の二重専攻になっていました。授業と課題の全てに無駄がなく、最初はプログラミングの知識が全く無くても、授業を聞き楽しく課題をやっていたらいつの間にか簡単なゲームのAIが作れるようになってしまう魔法のような授業です。この授業にハートを撃たれて、今まで沢山の学生がコンピュータサイエンス専攻・副専攻に変更しているとか。

【Developmental Psychology】

発達心理学の授業です。人の能力や気質などがどのように発達し変化していくのかを学びました。さすが学問の街ボストン、授業で紹介された有名な研究の多くは教授自身や研究仲間

が取り組んでいるものだそうで、ただ知識を暗記するだけでなく実際の研究の過程についても身近に感じることができました。来年度以降機会があれば研究にも携わってみたいです。

【First-Year Writing Seminar】

自分でテーマを選べる必修のライティングの授業です。私のクラスではイスラエルの歴史や宗教・文化について、本や映画を通して学びました。今まで中東の国々についてほとんど興味がなかったのですが、ホロコースト当時の人々の感情やイスラエルの人々の対立の背景が専攻の心理学とも繋がっていて意外にも興味深かったです。少人数クラスなので皆で近くのイスラエル料理レストランに行ったり、大学内にもユダヤ人の学生がいたり、世界中から学生が集まる大学ならではの新しい発見ができたように思います。

【The World of Communication: The Human Storyteller】

コミュニケーション学部の学生が最初にとる授業です（他学部の授業も好きなようにとって気に入ったら専攻を変えられるのがアメリカのいいところですね！）。映画やテレビ・広告・ジャーナリズムの3セクションに分けて学びます。私はアメリカのエンタメ業界等についてあまり詳しくなかったので最初は訳が分からずディスカッションで苦戦していましたが、TA（ディスカッションをリードしてくださる大学院生）に質問しまくりライティングセンター（課題を添削してくれるところ）を活用しまくる作戦でなんとか乗り切りました。興味の幅も広がり、自分の向き不向きの参考にもなって良かったです。

【All-Campus Orchestra】

音楽専攻でない人向けのオーケストラの授業です。中学からヴィオラを弾いていたので、息抜きがてら大学でも続けることにしました。この授業をとっていると音楽専攻向けのピアノ付き防音室が無料で使えるようになるので、課題に飽きた時はよくそこでヴィオラやピアノを弾いていました。学期中はそれぞれ課題で忙しくなかなか友達と遊べないので、一人でも気軽に楽しめる趣味を持つておくことの大切さを痛感しました。

3. 生活

【春休みボランティア】

普段は授業と課題中心でほぼひきこもり同然の生活を送っていたので、流石に社会と関わらないと人間にとっての大切な何かを失いそうだと思い、春休みに大学の Alternative Service Break という地域ボランティアプログラムに参加しました。ボストン郊外の畑で自然と触れ合ったり、社会的に恵まれていない方々へのサポートシステムについて学んだりしながらお

手伝いもさせていただき、忘れかけていた人間のあたたかみを感じました。言うのは簡単ですが、本当の意味で人に優しくするというのはなかなか難しいものです。

【芸術見放題】

ボストン大学の学生になると、モネや浮世絵が見られるボストン美術館や、あの有名なボストン交響楽団のコンサート（普通に買うと数万円します）がなんと無料で見られるのです！アートやクラシック好きにはたまりませんね。しかもどちらも徒歩で行けます。

【人間関係】

1学期目は授業についていくのに必死でなかなか人と関わる余裕がなかったのですが、今学期は少しずつスケジュール管理ができるようになってきたので、課題に集中する時間と友達と話す時間の切り替えが上手くいくようになった気がします。

4. 1年間で変わったこと

アメリカに来るまでの自分はとにかく生き急いでいました。目的を達成するため、非効率な時間は全て切り捨て、隙間時間も勉強、作業、暗記。もちろん頑張ってくれたこの時期の自分のおかげで様々な機会をいただいているのでこの生き方が駄目とは一概に言えませんが、ずっと全速力で走り続けていては山の奥に輝く夕日や道端にあった四つ葉のクローバーに気づかないかもしれません。

アメリカという新しい場所で一度全ての見えないルールや束縛から離れ、今まで会ったことのないような異なる価値観を持つ人と関わりながら自分自身を一から見つめ直したことで、もっと大きなスケールで物事を捉えられるようになり、無駄に見えることも楽しむ心の余裕が以前よりはできてきた気がします。

初めての留学でももちろん辛いこともありましたが、その分今までで1番精神的に成長した9か月間だったのではないかと思います。

そのような私の留學生活を支えて下さっている財団の皆様、約1万キロ離れているにもかかわらずよく連絡を取ってくれた日本の家族や友達、私に様々な刺激をくれた大学の先生方や仲間たち、いつも本当にありがとうございます。来学期も全力で楽しみながら挑戦していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。